

ディジョンにおけるスマートシティプロジェクトの視察報告

Smart City Projects in Dijon, France

高砂子浩司¹

Koji TAKASAGO

1 はじめに

近年、スマートシティの取り組みが世界の様々な都市で進められているが、都市オペレーションでの運用を実現しているフランス・ディジョンの取り組みを紹介する。2023年11月に、ディジョンの市街地内の視察を行い、On Dijonのコントロールセンターを来訪し、アモー副市長、公共空間管理等の責任者マシュー氏に、導入経緯・運用状況についてヒアリングを行った。

2 ディジョン市の概要

ディジョンは、人口約16万人のフランス・ブルゴーニュ地方の州都であり、ピノ・ノワールのワイン生産や歴史的建築物が魅力的な都市である。TGVが接続するディジョン駅から、LRTやバスの公共交通ネットワークが形成されており、中心部はライジングボラードで制御された質の高い歩行・滞在空間が充実し、シェアサイクルや、小型で静穏性が高いEV車両による循環バスで周遊できる環境が整っている（写真-1）。



写真-1 市街地を循環する小型EVバス

3 ディジョン市のスマートシティの取り組み状況

スマートシティ導入のきっかけは、2014年、市内の管理システムが更新時期であり、更新するだけで6,000万ユーロがかかるところ、新たなシステムに切り替え、照明マネジメントにより65%のコスト削減が見込める等、長

期契約により、設備刷新にかかる初期投資を回収できることがわかった。その後、2年かけて4社と交渉し、都市オペレーションとして実装できるシステムを要求するため、シミュレーションではなく、実際の事故にどう対応できるか各社100万ユーロかけてシステムを構築してテスト・検証を行い、ブイグ社が10,500万ユーロで12年の長期契約を落札した。

警察、公共交通、市民コールセンター等の自治体担当職員60人が、On Dijonコントロールセンターに集約され（写真-2）、照明・信号の制御、建物セキュリティ、交通事故、公共交通等のオペレーションを実施している。歩行者交通量に合わせた街灯制御や、公共交通の事故対応、河川氾濫の災害情報の通知、市民から通報された道路損壊や外壁への落書き、ごみの不法投棄といったことに対して迅速に対応可能なシステムや体制が組まれており、2023年の市民アンケートで8割以上の方が満足していると回答されている（詳細はヴァンソン藤井氏の紹介文を参照¹⁾）。アモー副市長は、バルセロナで開催されたスマートシティ・エキスポから帰ってきたタイミングであり、「5年前は5分しか喋れなかったが、今回は1時間以上プレゼンできた」と成果を実感していたことが印象的であった。



写真-2 コントロールセンター内の公共交通部門

参考文献

- 1) スマートシティ・ディジョン（公益財団法人ハイレイフ研究所）

<https://www.hilife.or.jp/16314/>

¹ 都市地域・環境部門 グループマネジャー